学校だより

横浜市立釜利谷中学校
発行日　令和６年１月９日（火）
発行者　学校長　　木村　典明
所在地　金沢区釜利谷南 3-5-1
電話 784-7311　FAX 783-9762
URL　http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/kamariya/

学校教育目標

人との関わりを大切にします。（徳、公）
生きるための学びを大切にします。（知、開）
心と命を大切にします。（体、徳）

知・・・生きてはたらく知
徳・・・豊かな心
体・・・健やかな体
公・・・公共心と社会参画
開・・・未来を開く志

「新年にあたって」

校長　　木村　典明

保護者のみなさま、地域のみなさま、旧年中におきましては、釜利谷中学校に多大なるご支援を賜わり、誠にありがとうございました。本年がみなさまにとりまして幸多き一年になりますことをご祈念いたします。 私たち教職員一同も、心機一転、あらためて教育活動に努めていく所存です。今年も変わらぬご理解ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、昨年の 11 月に、３年生の国語の授業で、「『わたしの一冊』を紹介しよう」という学習活動が行われました。その様子を参観させてもらったのですが、「戦争と平和」という重いテーマということもあって、静謐な雰囲気の中で発表が進み、どの生徒の発表も「読み応えがありそうだな」「読んでみたいな」と感じさせるものばかりでした。紹介された本の中にはかなり著名なものもあったのですが、「そういえば、これ読んだことなかったな」というものも多く、すっかり感化されてしまった私は、「よし！読んでみよう」と書店へ足を運び早速一冊の本を手にしました。その一冊を紹介して今年の最初の巻頭言といたします。

その一冊とは、『アンネの日記』です。未読の人はいても「聞いたことがない」という人はいないのではないか、というぐらい世界的に有名なベストセラーですね。第２次世界大戦下、ナチスドイツの占領下にあったオランダで、ナチスから逃れるために潜行生活を余儀なくされたユダヤ系ドイツ人の“アンネ・フランク”が、その潜行生活の様子を書きつづった日記様の書籍です。誕生日にもらった日記に「キティー」という名前を付けて、「キティーに向けてしたためた手紙」という形で話は進んでいきます。

書き始めの 1942 年６月頃は、内容が子どもっぽい（アンネ 13 歳）のですが、潜行生活の不自由さ、ナチスに怯える恐怖感、家族との確執、同居人ペーターとの恋など、様々な経験や熟思を経て、２年後の 1944 年の６～７月頃にはかなり思慮深くなっていきます（日記は８月１日で終わっています）。時が流れていく中においても、全般的に感じるのは「平和への願い」と「将来への夢」です。こんな一節を見つけました。

”私は若く、いまはまだ埋もれている多くの資質をそなえています。若く、強く、そしていままさにおおいなる冒険を生きています。今はその冒険のただなかにいるからには、たとえどんな楽しみも得られないからといって、一日じゅう愚痴ばかりこぼしているわけにはゆきません。わたしは多くのものを与えられています。明るい性質と、あふれるばかりの明朗さ、強さを持っています。日ごとにわたしは自分が成長してゆくのを感じます。”

戦争が終わって平和な生活が戻ることを強く願いつつ将来は作家になりたいと夢見ている、釜利谷中の生徒たちと同年代のアンネの思いが伝わってくるくだりがそこここに見られ、切なくなってしまいます。

釜利谷中の生徒たちには、現在の自分たちの生活が多くの尊い犠牲によってつくられてきたということを知るとともに、生涯にわたって平和な世の中を希求し続ける心を育んでほしいと、新年にあたって思っているところです。

（引用）「アンネの日記　増補新訂版」（文春文庫）

◇「新しい学校のリーダーズです！」　－生徒会役員選挙－

12月8日（金）に本校体育館にて新しい釜利谷中学校のリーダーを決める生徒会本部役員選挙が行われました。釜利谷中学校を生徒のみんなにとって今以上により良いものにしようと立ち上がった立候補者のみなさんが、熱く選挙演説をして、自分の目指す釜利谷中学校像を語りました。投票によって選出をするので、当選する人とそうでない人に分かれてしまうにも関わらず、「釜利谷中学校のみんなのために頑張る！」と立ち上がった立候補者のみなさんの熱意と勇気には、高評価（good）ボタンを無限に押してあげたい気持ちでいっぱいです。新たに役員になったみなさんには、ぜひ釜利谷中学校がより良い学校になるために頑張ってもらいたいと思います！

ここでは、代表して、新生徒会長になった生徒の選挙演説の際の自己 PR を紹介します。

全校生徒のみなさん、こんにちは。この度、生徒会長に立候補しました。本日は、私が実現させて見せる学校の姿と、当選後にどう貢献するのかお話しします。

この釜利谷中学校は、活気の溢れる素晴らしい場所です。しかし、これまで多くの友人から意見や不満を耳にしてきました。例えば、イベントの改善や設備の改修など、これらの生徒一人ひとりの声は無視されるべきではありません。行動に移し、私たちの意見で学校の未来を形成するべきです。そのために、私は、見つけた問題に真剣に取り組むことを約束いたします。私たちの学校をより充実させるためにみんなの意見を生かしてみせます。私を支持してくださることを心から願います。

◇「2023 年の一文字は“税”でした」　―中学生の「税についての作文」―

2023年の世相を漢字一文字で表す「今年の漢字」が、12月に京都の清水寺で発表されました。全国から集まった14万票余りのうち、最も応募が多かった漢字は「税」ということでした。実は、税に関する取組として、毎年、全国納税貯蓄組合連合会と国税庁が主催となって中学生の「税についての作文」というコンクールが行われています。これは、中学生が、税をテーマとして作文を書くことを通じて、税について関心を持ち、正しい理解を深めることを目的としているものです。この度、本校から応募した生徒が、このコンクールで優秀賞を収めました。その大変素晴らしい作文をご紹介します。

「私たちの納税」

私には、８４歳にもなる祖父がいる。しかし８３歳の時に急に動けなくなってしまい、病院へ行き脳梗塞と診断された。祖父は食べることや歩くことができない重度な病状だったので、病院に入院することになった。当時は新型コロナウイルスの影響で入院している祖父に数ヶ月も面会できず、とても家族で祖父のことを心配していた。しかし順調に回復して退院し、定期的にリハビリ施設に通いながら家で介護をすることになった。

ある日祖父の様子を見に行こうと家に行くと、そこには施設で見るような電動の介護ベッドや車いすがあった。これらを買うのに費用はどれぐらいかかったのか気になり祖母に聞くと、「本当は月に３万円ほどかかる介護用品のレンタル料が介護保険のおかげで６千円ほどで利用できる」と聞き、とても驚いた。また介護する祖母は精神的にも肉体的にも不安な中、金銭的負担が軽減されたことはとても大きかったと感謝していた。

祖母が話をしていた介護保険について調べることにした。介護保険は半数が私たちが納めている税金から賄われていて、税金の社会保障関係費という分野だとわかった。このことを調べてみて私た

ちが払っている税金が身近な人に役立っていることを実感し、税金は人々の生活を支えているんだなと思った。

しかし今、日本では少子高齢化が問題になっている。少子化が起こると労働者が減り、高齢者が増える。そうなると高齢者は社会保障での年金や医療保険を利用する人が増えていき、社会保障の費用、労働者が納める金額が増えることになる。しかし少子化によって働き手が減るため費用が増えているのにそれを負担する人が減っていく。そして 2025 年には高齢者１人に対して労働者の１.８人が、2050 年には高齢者１人に労働者の１.３人が支えなければならないと予想されている。私たちはこの問題に対してどう向き合っていけばいいのだろうか。

私はこの問題に対して、今よりも少子化対策に力を入れてほしいと思う。そのためには人々が結婚したいと思えるような賃金の上昇や安定した雇用を得られることが必要だと思う。また子育てには多額の教育費や医療費がかかるので子どもを諦める人が多い。欧米諸国では子どもの教育費や医療費を無償などの手厚い支援が受けられるので、子どもを安心して生み育てられる人が多い。しかしそれらには多額の税金が必要なので、日本では増税しなければならない。それには反対する人も多いだろう。しかし税金の支出の無駄を省き使い道を明瞭化した上での増税ならば、今より子育てに対する金銭的な不安が少なくなり、少子化対策に繋がっていくのではないだろうか。

税金は人々の生活を支えている。私たちが税金の使い道に納得できた上で納税することができれば、今以上に豊かな社会が実現できるのではないかと思う。

◇よいしょーっ！　―餅つき大会―

１２月１０日（日）に本校の中庭で、サポーターの会（旧おやじの会）主催の餅つき大会が行われました。本校の生徒ももちろんですが、近隣の小学生や小さな子どもたちにも参加してもらい、青空のもとで元気に餅をつきました。臼二据えを同時に使い6サイクルついたので、かなりの量でしたが、大好評でほぼはけてしまいました。感染症対策のためにできた餅は持ち帰ってもらいましたが、みなさん、家でおいしく食べられたでしょうか？

◇葉も食べよう！　―食品ロスの話―

食材は、作るまでに貴重な水・エネルギー、人の労力がたくさん使われています。腐らせたり、食べずに廃棄したりするのはもったいないことです。

日本の食品ロスは年間で約643万トン。１日換算すると毎日１０トントラック約１７６０台分を捨てていることになります。国民全員が１日茶碗１杯分のごはんと同等の量の食べ物を廃棄しているのと同じ、ということです。

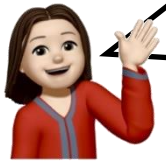
例えば、大根やかぶは、葉から根まで捨てるところがなく、全て使い切ることができる野菜です。工夫をして家庭から出る食品ロスをぜひ減らしたいものです。

（参考）「野菜の教え　秋・冬編」（群羊社）

本校の学校図書館の蔵書です。学校司書の先生に薦めてもらいました。

１月の主な予定

１日（月）	元日
４日（木）	学校閉庁日
８日（月）	成人の日
９日（火）	始業式
10 日（水）	教育相談（～15 日）
15 日（月）	防災とボランティア週間（～21 日）
16 日（火）	専門委員会
17 日（水）	個別支援学級市合同学芸会 生徒委員会
	防災とボランティアの日
24 日（水）	公立高等学校出願（インターネット）開始



【スクールカウンセラー勤務日です!】
１月 12・19・26 日（金）
お気軽にご利用ください！
※事前予約が必要です。副校長までご連絡を（TEL784-7311）。

次回の発行予定日は２月１日（木）です。